

## 補綴歯科治療と食支援による生涯を通じた食生活維持の重要性

古屋純一

昭和大学歯学部高齢者歯科学講座

要介護高齢者や入院高齢者では、全身疾患や後遺障害によって、口腔の運動障害が生じ、経口摂取が困難になりやすく、口から食べる楽しみが失われやすい。その結果、低栄養状態に陥り、疾病の治療や重症化予防に悪影響を及ぼすことも少なくない。義歯治療や口腔機能の管理など歯科補綴学的なアプローチによって、要介護状態や入院下でも、最期まで可及的に経口摂取を維持できることは、高齢者の QOL 維持に直結する。

訪問診療による要介護・入院高齢者、終末期高齢者への歯科的対応は、国際的にも我が国が他の追随を許さない臨床分野であり、口腔機能を専門とする歯科補綴学分野を基盤とした複数の優れた臨床研究が存在する。

入院高齢者の全身と口腔の関連に関しては、入院中の低栄養患者における口腔機能の著しい悪化 [1] や脳卒中患者や肺炎患者に対する口腔管理の効果 [2, 3, 4, 5] が報告されており、なかでも、嚥下障害患者にとって歯科補綴学が専門とする咬合支持が重要であること、経口摂取の回復、急性期脳卒中患者における口腔管理が回復期の ADL や死亡率などの全身機能に影響する可能性が明らかにされている。

また、在宅や施設で療養生活を送る要介護高齢者においては、要介護高齢者の口腔機能と死亡率との関連 [6]、補綴歯科治療が要介護高齢者の嚥下機能や低栄養を改善する可能性 [7, 8] が明らかにされている。この背景には、補綴歯科治療が口腔における咀嚼にとどまらず、摂食嚥下というより広い範囲の機能維持に貢献している可能性があり、健常高齢者に対する義歯装着が嚥下機能を向上する研究も複数存在する [9, 10, 11]。また、嚥下障害を有する要介護高齢者においても、適合の良い義歯を装着すると、咽頭期の嚥下機能が改善する可能性が報告されている [12, 13]。

さらに、経口摂取は人生の最後まで残る楽しみである。昨今、がん患者の在宅や施設での看取りが急増しており、そうした終末期患者においては、口腔機能が低下しやすいことが明らかとされ [14]、新たな医科歯科連携の必要性が見いだされている。

以上のように、国際的に我が国は口腔と全身のクロストークに関する臨床研究のフロンランナーである。そればかりでなく、こうした研究成果により「病院内の栄養管理チームへの歯科医師の参加」や「脳卒中患者の口腔管理」「要介護高齢者の口腔管理」「終末期患者への口腔管理」「経口維持加算」等が国民健康保険や介護保険に導入されており、補綴歯科治療と食支援に関する研究成果の社会実装という点でも特筆すべきである。

今後の課題として、歯科と栄養の包括的アプローチに代表される学際的な研究推進に基づくエビデンスの構築と社会実装が求められる。そのために必要な多職種連携医療による介入研究を学会主導型の大規模研究として推進し、ビッグデータとして解析することで、国際的にわが国が先駆けている医科歯科連携、医療介護連携を国際的に推進する根拠とする。

#### 利益相反

本論文に関して、開示すべき利益相反状態はありません。

#### 参考文献

- [1] Furuya J, et al. Gerodontology. [in press] 2021 (IF:2.750, 被引用回数 8)
- [2] Furuya J, et al. J Oral Rehabil. 47:736-742, 2020 (IF:3.558, 被引用回数 13)
- [3] Matsuo K, et al. Gerodontology. 39:67-73, 2022 (IF:2.750, 被引用回数 1)
- [4] Yoshimi K, et al. J Nutr Health Aging. 25:979-984, 2021 (IF:5.285, 被引用回数 2)
- [5] Shiraishi A, et al. Clin Nutr. 38:2677-2683, 2019 (IF:7.643, 被引用回数 21)
- [6] Morishita S, et al. Int J Environ Res Public Health. 18:1723, 2021 (IF:4.614, 被引用回数 4)
- [7] Kanehisa Y, et al. Community Dent Oral Epidemiol. 35:534-538, 2009 (IF:2.489, 被引用回数 25)
- [8] Furuta M, et al. Community Dent Oral Epidemiol. 41:173-181, 2013 (IF:2.489, 被引用回数 132)
- [9] Yoshikawa M, et al. J Am Geriatr Soc. 54:444-449, 2006 (IF:7.538, 被引用回数 38)
- [10] Yamamoto H, et al. J Oral Rehabil. 40:923-931, 2013 (IF:3.558, 被引用回数 24)
- [11] Onodera S, et al. J Oral Rehabil. 43:847-854, 2016 (IF:3.558, 被引用回数 11)
- [12] Yoshida M, et al. J Am Geriatr Soc. 61:655-657, 2013 (IF:7.538, 被引用回数 8)
- [13] Takagi D, et al. Geriatr Gerontol Int. 21:907-912, 2021 (IF:3.387, 被引用回数 0)

[14] Furuya J, et al. Support Care Cancer. 30:1463–1471, 2022 (IF:3.359, 被引用回数 3)